

岸和田 揺れる市庁舎

毎日新聞 1 月 15 日夕刊 1 面に、大阪府岸和田市の庁舎建て替え問題が大きく掲載されている。写真下は市が毎日新聞に開示した文書だが、失格とされた 2 業者の弁明は黒塗りだった。気になる記事であり、抜粋して紹介したい。



「市当局が一方向的に失格を判断できるという運営のあり方に大きな懸念を持つ」「専門家としての良心に反すると考え、辞任をした」一。選定委員長だった仲隆介・京都工芸繊維大教授は 1 月 5 日、4 人の連名で、辞任理由を記した文書をフェイスブックに投稿した。事業は 2029 年の完成を目指し、老朽化した市庁舎を建て替えるもので予算は約 127 億円に上る。市は設計・施工を一体で担う業者を選ぶため、仲教授ら建築や都市計画の専門家 5 人と堤勇二副市長の計 6 人でつくる選定委員会を設置。参加業者の技術提案書を採点する「プロポーザル方式」で 20 年 9 月に 1 次審査をした。12 月 4 日の最終審査で契約相手を決めるはずだったが、突然延期になった。

市によると、最終審査に残った 3 業者のうち 2 業者が提案書の提出期限だった 11 月 26 日、永野耕平市長や堤副市長との面会を求めて秘書課を訪問。不在のため置いて帰った名刺を、市長が問題視したという。市の実施要領では、選定委員に「故意に接触を求めた場合」などに失格となる場合があると規定。堤副市長が選定委員だったため、永野市長が担当課と相談して規定に抵触と判断し、2 業者の失格を決めた。委員には、予定されていた最終審査の前日に連絡した。これに対し、委員らは「3 社中 2 社を失格させるという重要な判断について選定委に諮問すべきだった」と反発。さらに市が詳しい説明を拒んだとして、委員 4 人が相次いで辞任した。市は残った橋爪伸也・大阪府立大特別教授を委員長とし、副市長に加えて建設部長ら市職員 2 人を委員に任命。市議会から「独断だ」との批判も上がる中、市は最終審査を 12 月 27 日に強行し、大成建設などでつくる JV(共同企業体)が契約先に選ばれた。

自治体の入札制度に詳しい五十嵐敬喜・法政大名誉教授（公共事業論）は「市は選定委員会に説明せず 2 業者を失格とした上、外部委員が辞任後、大半が市職員からなる委員会で審査を強行しており、極めて異常な運営だ。市議会で真相を究明し、業者選定のプロセスをいったん停止した上で市民が納得できるよう説明を求めるべきだ」と話している。

名古屋市で「プロポーザル方式」の選定委員を務めたことがある。五十嵐さんが指摘するように、選定作業は「極めて異常な運営」であり見過ごすことができない。外部委員のなかで一人だけ辞任せず、新たに委員長に就いた橋爪紳也・大阪府立大特別教授の姿勢にも疑問を感じる。なお、橋爪教授は各地で数多くの審議会委員を務めている。

(2021 年 1 月 19 日)